

◆ News Release ◆

各 位

株式会社阪急阪神交通社ホールディングス
広 報 部

阪急阪神交通社グループ(平成21年度)決算報告

阪急阪神交通社グループ平成21年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)決算内容をご報告申し上げます。

記

	営業収益		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
平成21年度 (平成22年3月期)	62,854	(95.5)	276	(19.0)
平成20年度 (平成21年3月期)	65,805		1,451	

※阪急阪神ホールディングス連結子会社 25社(旅行・国際輸送事業)の合計数値

※2009年度に除外された会社:2社、2009年度に新規追加の会社:2社

●今後の方針

旅行事業では価格競争から価値競争への転換を更に進め、お客様の支持をより確固たるものとします。その為にお客様満足度の向上を第一と考え、品質管理・リスクマネージメントを徹底し、海外旅行の更なる拡販と、国内旅行の強化に努めます。

国際輸送事業では有望市場への拠点展開や次世代成長産業の取り込み等を通じて事業基盤を強化すると共に、国内・海外の拠点統合によるスケールメリットの創出・サービスレベルの向上・経営資源の有効活用等に取り組んでいきます。

— < 本件に関するお問い合わせ先 > —

株式会社阪急阪神交通社ホールディングス 広報部

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-2 TEL 03-6745-7333/FAX 03-6745-7334

〒530-0047 大阪市北区西天満6-4-18 TEL:06-6366-1261/FAX:06-6366-1290

平成21年度取扱額

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

〈旅行事業〉

●取扱額

(単位:百万円)

会社名	年度	海外旅行	国内旅行	外国人旅行	総取扱額
阪急交通社	平成21年度	218,130	133,503	1,230	352,944
	平成20年度	214,697	135,431	1,386	351,583
	対前年度比(%)	101.6%	98.6%	88.8%	100.4%
阪神航空	平成21年度	27,075	1,959	-	29,035
	平成20年度	31,684	2,014	-	33,698
	対前年度比(%)	85.5%	97.3%	-	86.2%

※総取扱額にはその他を含みます。

●海外旅行

主力の募集型企画旅行に関しては、期初は新型インフルエンザによる影響を受けましたが、6月頃からキャンペーン商品の投入等により回復基調となり、西欧・中国方面を中心に集客は好調となりました。

業務旅行については、景気低迷の影響や新型インフルエンザによる出張自粛等により受注が低迷しました。

●国内旅行

主力の募集型企画旅行に関しては、景況感の悪化や新型インフルエンザによる影響を受ける中、積極的な広告展開などにより北海道・東北方面などを中心に堅調に推移し、集客は前年並みとなりました。

●平成21年度取扱実績(募集型企画旅行)

	人数	前年度比
海外旅行	約87万人	約130%
国内旅行	約306万人	約99%

《今後の見通し》

新型インフルエンザの影響や不況感が強かった前年同時期に比較して堅調な出だしとなり、海外旅行については、20万人超目標の中国及び更なる拡販を掲げているヨーロッパを中心に堅調に推移する見込みです。国内旅行についても全般的に順調に推移する見込みです。

不安材料としてはアイスランドの火山噴火(4月14日発生)、国内外の航空会社の施策変更(路線再編、機材の縮小化、コミッションカット、値上げなど)による仕入環境の悪化や、消費者の低価格志向の高まりなどがあげられます。

平成21年度取扱額

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

〈国際輸送事業〉

●売上額

(単位:百万円)

会社名	年度	航空輸出	航空輸入	海上輸出	海上輸入	総売上額
阪急阪神エクスプレス	平成21年度	19,501	6,345	4,867	7,934	40,126
	平成20年度	24,209	6,723	5,605	8,371	46,512
	対前年度比(%)	80.6%	94.4%	86.8%	94.8%	86.3%

※総売上額にはロジスティクスおよびその他を含みます。

※前年度および平成21年4月から9月は旧阪急エクスプレスと旧阪神エアカーゴを合算した数値です。

●平成21年度取扱実績

	実績	前年度比
航空輸出(重量)	66,219トン	106.0%
航空輸入(件数)	218,473件	95.2%
海上輸出(件数)	46,749件	94.9%
海上輸入(件数)	70,326件	93.6%

●航空輸出

航空輸出は、取扱重量において世界同時不況以降減少傾向が続いていましたが、下期は北米向け液晶関連品や中国・アジア向けの電気・電子部品などを中心に回復基調となりました。

●航空輸入

航空輸入は、国内の消費低迷の影響により、電子部品や自動車関連、アジアからの衣料品や雑貨など消費財が振いませんでした。年度末には繊維関連の活発な荷動きも見られましたが、期を通じて低調に推移しました。

●海上輸出

海上輸出は、下期に北米向け自動車関連やアジア向け設備関連などの大型出荷の取扱いがありましたが、外需縮小の影響により通期では低調に推移しました。

●海上輸入

海上輸入は、主力の中国からのホームセンター関連商品や液晶関連部品の荷動きは堅調に推移しましたが、消費低迷の影響から全体的には低調でした。

《今後の見通し》

2010年度は貨物需要の回復に伴う収入増が見込めますが、航空輸出混載の効率化・支出削減効果を図り、今春新設した営業開発部を中心としたグローバルビジネスの新規顧客取り込みを加味して、今後も安定・成長していく見通しです。

また、中国内陸部、インド地方都市への展開を図る一方、ベトナム地方都市、中東欧、トルコ、中南米、北アフリカなど新規市場(ポストBRICs)への展開を加速して事業の安定と成長を図ってまいります。